慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ニュー・ハーモニィの現状		
Sub Title	Present state of New Harmony		
Author	白井, 厚		
Publisher	慶應義塾経済学会		
Publication year	1975		
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.68, No.5 (1975. 5) ,p.468(56)- 477(65)		
JaLC DOI	10.14991/001.19750501-0056		
Abstract			
Notes	資料		
Genre	Journal Article		
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19750501-0056		

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ニュー・ハーモニィの現状

白 井 厚

1

筆者はかつて本誌において Robert Owen のアメリカ における New Harmony の共同体実験について触れ それはわずか3年で挫折したとは言え、第1に、彼の 理想の最大限の実践であり、彼の活動の転機、かつ頂 点を示すこと、第2に、おそらく世界で最初の非宗教 的共同体の実験であり、その後に現れる多くの共同体 運動の先駆であること、第3に、これはアメリカの歴 史に大きな影響を与え、彼の子孫やオウエン主義者を 通じて、オウエンの名はアメリカにおける多くの社会 改良や解放運動と結びついていることを指摘した。 1825年4月から1828年4月に至るニュー・ハーモニィ の実験は、その前に Rappites (Harmonists と呼ばれる) による10年の共同体前史があり、また以後150年に及 ぶ後史が連綿と今日まで続いている。ニュー・ハーモ ニィは、決して単に一場の夢の跡ではなく、この長い 期間を通じて、アメリカ文化の一中心なのである。

今回の渡米の目的の一つは、ニュー・ハーモニィ訪問にあったので、世界で最初につくられたという日本、のロバアト・オウエン協会の会長五島茂教授から紹介状を貰ってくるはずであったが、それが間に合わぬうちに離日してしまった私は、とりあえずニュー・ハーモニィの Visitor Information Center に手紙を書き、妻子と共にかの地を訪問したい冒連絡した。幸いにもこの手紙はオウエン一族の一人 Kenneth Dale Owen 夫人に回送され、彼女は、日本のロバアト・オウエン協会や、日本人のニュー・ハーモニィに対する関心が強いことを知っており、歓迎するとの返事を得た。彼女はオウエンの曽孫の夫人で、テキサス州ヒューストン

に住み、Blaffer Trust (財団) の所有者。この財団はニュー・ハーモニィの歴史的な土地・建物を買収・管理しているし、彼女個人もいくつかの建物を所有、また多額の寄付をしているので、彼女は単にオウエン一族の一人というだけでなく、現在のニュー・ハーモニィのパトロンである。そこで早速日程などを打ち合わせ、1974年8月18日からかの地に3泊することとした。

私の住むヴァジニア州 Charlottesville から見ると、インディアナ州ニュー・ハーモニィは丁度真西に当り、直線距離にすれば約500マイル強、インディアナ州の辺境 Wabash 河のほとりにある小村だが、予定されている国道64号線が完成していれば、極めて簡単な道である。だがこの道がまだごく部分的にしか通じていないため、やむなく狭い旧道を羊腸のごとくたどってアパラチア山脈に挑み、ウエスト・ヴァジニア州へまず抜けなければならない。余裕を取って途中2泊の計画をつくり、8月16日、車でシャーロッツヴィルを後にした

南北戦争の英雄 Robert E. Lee, Thomas J. "Stonewall" Jackson が眠る Lexington を経て、ウエスト・ヴァジニア州に入り、山中の古いホテルの主からこの州には奴隷がいなかったというような自慢話を聞いたり、Blue Grass 地域として知られたケンタッキー州の大牧場で目を楽しませたりしながら、ケンタッキーのLexington、Louisvilleを通って、予定通り18日夕刻に念願のニュー・ハーモニィ着。ニュー・ハーモニィに近づく頃から、次第に付近の村は田舎臭さを増してきたので、今も人口僅かに1,000人弱というニュー・ハーモニィもかかる寒村の一つと化したかと思いきや、こつ然と林の中に現れたこの夢の村は、整然たる街並とよく手入れされた古い建築物を有し、数々の史跡の間

に咲き誇る花に囲まれ、地上の理想郷の名に恥じぬたたずまいを示していた。村を一巡してのち、中心部に近く赤いジェラニウムの咲くレストランで、かねての手管に従い Pete Webster 氏に会う。彼はこの村における経営者の一人で、大きなお腹をゆすって笑う好人物。以後われわれの滞在中の一切の接待を担当してくれた。ひなには稀な美味の御馳走にあずかり、われわれの宿として、ラップ時代に建てられた"Poet's House"と言うロマンス漂う広い庭つきの家を提供してもらう。

2

現在のニュー・ハーモニィの建設は、1814年 Johann Georg Rapp (1757~1847)とその一派の手に始まる。ラップは西南ドイツの Württemberg にぶどうづくりの農民の子として生まれ、強力な宗教指導者で、「聖書」を独自に解釈、パレスチナにキリストが再臨し至福一千年 (millennium) がすぐにも開始されることを信(2)、その準備を訴えて、大きな影響を与えた。そしてルーテル派の権威主義に反逆し、国家と既成教会からの干渉を逃れ、キリスト再来の日を汚れなき新天地で迎えるために、またナポレオン侵攻の恐れもあって、1803年アメリカに渡る。そして1805年、約700人の同志と共に、当時まだ新開地であったペンスィルヴェイニア州 Butler 郡の約3,000エイカの土地に Harmonie

と呼ばれる共同体を建設、ラップと Associates の間に は契約が結ばれた。この契約によって、ラップは原始 キリスト教的な共産主義社会を組織、また1807年には 任意の独身主義もとりいれ、養子の Frederick Rapp と 協力してその建設に成功し、10年後には更に広大な土 地を求め、前の土地を10万ドルで売って、水運の便の よい Wabash 河畔に 25,000エイカの新たな約束の地 を6万ドルで得て移動した。数年後に更に土地を買い 足して3万エイカとなり、これが今のニュー・ハーモ ニィの地で、ここでも厳格な共産主義を実行、木を切 り沼を埋め、畑をつくり家畜を育て、疫病と聞いつつ 大きな努力によって開拓に成功している。成功の理由 は、強い信仰心と優れた経営、ドイツから多くの熟練 職人を連れてきたことなどによるだろう。彼らは街を 計画的に建設、工場を建て蒸気機関を用いて生産し、 品質の優れた余剰物資(肉、穀類、織物、麻布、屋根板、 ローブ、砂糖、ウィスキー、帽子、靴、牛など)は、遠く大西 洋岸やニュー・オーリアンズにまで売られた。フレデ リックの才能は政治の面にまで発揮され、ニュー・ハ ーモニィは有数の村になっていたために、1816年には インディアナ州の憲法制定会議議員となって活躍,通 貨の安定、産業振興、交通整備などに貢献している。 インディアナにおけるハーモニィの建設に奇蹟的とも 言える成功を収めたラップは、10年後に再びペンスィ ルヴェイニアに移住して Economy という共同体を 築

注(2) キリスト再来の約束は、「ヨハネの黙示録」に示される。"また私が見ていると、一人の天使が、底知れぬ場所の鍵と 大きな鎖を手にして天から下ってきた。彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわちかの年経た蛇を捕え、それを千年 の間縛りつけ、底知れぬ場所に投げ込み、閉じ込めて封印し、千年の期間が終るまでは諸国民をこれ以上抜かぬように した。……また見ていると、数多くの座があり、その上に人びとが坐っていた。そして、彼らに裁きの権が与えられて いた。また、イエスのあかしをし神の言を伝えたために首を切られた人びとの霊がそこにあり、また、獣をもその像を も拝まず、その刻印を額や手に受けることをしなかった人びとがいた。彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間 支配した。"(第20章)

⁽³⁾ イコノミイという名前は、ラップの言"A divine harmony within a divine economy"からきているが、新しい共同体の現実的な性格を表している。これもまたヨーロッパ人の注目をひき、その一人 Friedriech List は、1825~32年にかけてアメリカに追放されている間にイコノミイの近くに農場を買い、そこからラップを訪ね、「農地制度論」の中で次のように記している。"こういう計画的な入植は、最初から大きい障害にぶつかる。 すなわち、完全な植民団体をつくるのに必要な、諸力の多様性と諸精神の調和とは、これを求めることが極めて困難であるのみならず、それが見いだされたのちにあっても、移住の途上と新しい入植地の建設とにあたって、これを結合させておくことは、それよりもはるかに困難だからである。それでもこれが不可能でないことは、ヴェルッテンベルク出の植民引率者であるラップやハラーやボイムラーが示したところであるし、ヘルンフート教団の人々が示したところもこれに劣らない。 またこの試みの成功によって、こういう方法による植民についてわれわれの確約した諸利益が妄想ではながったことの、さからいがたい証明が与えられたのである。これらの移住によって、文化はまるでなにかいっそう高い力によるもののように荒野のただなかに運び込まれ、しかもそれは、今なおいたるところで、その地方全体の驚嘆の的となっているのである。" Die Ackerverfassung、die Zwergwirtschaft und die Auswanderung、1842、小林昇訳、岩波文庫、132ペイシ。リストはここで、ドイツ人は共同社会の本を一冊も書かぬがこれを実践していると言い、共同社会維持の困難を克服する力の根元は宗教であると述べて、ラップが旅行と定住の費用を祈禱と説教によって生み出した状景を描いている。ラップの三つの共同体は、その特殊な性格、継続的な成功せる共産主義、ドイツ人によるアメリカ移民など、いろいろな面で興

き、これは1847年ラップの死まで、また部分的にはそ の後も1905年まで存続した。

オウエンはこのハーモニィの土地・建物を購入し、そ の名を New Harmony と改め, 入村者を募り, 自分の理 想を実現しようと早急に共産主義を試みたが結局失敗 し、わずか3年の後にイギリスに帰る。その経過は前稿 で述べたのでここでは省略するが、そこで触れたよう に、オウエンの子供たちと、William Maclure、Gerard Troost, Thomas Say, Charles A. Lesueur, Joseph Neef たちの人材は、この地に残った。そしてオウェンの子 供 Robert Dale Owen は政界にも活躍し、William Owen は演劇に貢献し、David Dale Owen は地質学を研究し、 Richard Owen は地理学者となり、マクリューアによ って教育が普及、Francis Wright によって女性の解放 が進んだ。特に自然科学研究においては多くの科学者 が集まり、その文化の高さによって来訪者を驚かせて いる。Workingmen's Institute 設立, 劇場開設, Minerva Society 結成,地質学研究所設立などは、いずれもこ うした気運の現れで、20世紀に入ると、これらの貴重

な建物や資料を保存する企てが始められ、1939年に、インディアナ州の歴史家 Ross F. Lockridge らの努力で New Harmony Memorial Commission が創立され、この委員会がいくつかの残った建物を購入、またいくつかの土地は州の所有となった。1953年にこの委員会は解散し、以後その財産はすべて州の Indiana Department of Conservation の管理下にある。われわれを招待してくれたケニス・デイル・オウエン夫人も多くの歴史的建物の所有者で、村の保存に大きな貢献をしているし、その他州やいくつかの団体や個人が、その維持に努力している。

さらに1964年10月には、ニュー・ハーモニィに対する認識を深め、その文化を発展させ、施設を改善し、またその資金を調達するために、Harmonie Associatesが結成された(会長 John Elliott)。これはラップ時代の名前を継いだものであり、またこの年は丁度ラップによる村の建設から150年目に当るため、その記念事業も行なわれたようである。

- 1971年はオウエン生誕 200年のため、イギリス、ア

ニュー・ハーモニィ関係年表した。

1757	George Rapp 生まれる。	1853~8	Robert Dale Owen, ナポリ王国駐在
1771	Robert Owen 生まれる。		大使。
1803	Rappites, アメリカへ渡る。	1857	Dormitory No. 4 を劇場に改装。
1805 Feb. 15	Harmonie 建設。	1859	Owen Laboratory 建設。
1807	独身制導入。	Oct. 20	Minerva Society 結成。
1814 May	インディアナに移住決定。	1861	南北戦争開始。
1815	春に移住完了。	1863 Sept. 28	Minerva Society, 南北戦争により消
1816	インディアナ、州となる。		滅。
1824	Economy 个移住。	1894	Workingmen's Institute 新築。
1825 Jan. 3	Owen, Harmonie を買収。	1913	Murphy Auditorium 建設。
May 5	残留 Harmonists 100人の離村式。	1919	Indiana Federation of Woman's Club,
Oct. 1	New Harmony Gazette 発刊。		Old Fauntleroy Home を購入。
	Francis Wright, Female Social	1939	Labyrinth 復元。New Harmony
	Society 結成。		Memorial Commission 設立。
1826 Jan. 24	"Philanthropist" 号到着。	1960	Roofless Church 建設。
1827	Thespian Society 設立。	1964 Oct.	Harmonie Associates 結成。
1828 Jun. 22	Owen, 村と訣別。	1971 Oct.	Owen 生誕 200 年記念会議。
1836~8	Robert Dale Owen, 州議会議員。	1973 Nov.	Historic Communal Societies Con-
1838	Workingmen's Institute 設立。		ference.
1843~7	Robert Dale Owen, 上院議員。		

味深いものがある。それは経済学者のみならず詩人の注目をひき、Gcothe の「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」、 Lenau の詩、Byron の「ドン・ジュアン」などにも触れられているという。Cf., Karl John Richard Arndt, The Indiana Decade of George Rapp's Harmony Society: 1814–1824, 1971, p. 12.

注(4) Cf., "New Harmony's Later History," The New Harmony Movement, by George B. Lockwood, 1905, in Dover edition, 1971, pp. 314-321.

メリカ、日本、セイロン、台湾、印度で記念行事が行 なわれた。アメリカではニュー・ハーモニィの Thrall Opera House で, 10月15, 16日, インディアナ州立大 学歴史学部と Harmonie Associates の共催で記念行事 が行われ、アメリカの14州およびイギリスから、275 名が出席した。その記録は、Robert Owen's American Legacy, Proceedings of the Robert Owen Bicentennial Conference, edited by Donald E. Pitzer, Indiana Historical Society, 1972 として出版されている。それによ れば、15日はインディアナ州立大学歴史学教授 Donald Pitzer の挨拶,前インディアナ州知事Roger D. Branigin の講演 "ロバト・オウエン のニュー・ハーモニ ィ。アメリカの一財産",記録映画"New Harmony: An Example and a Beacon"上映, レセプション, 16 日はイギリス Sussex 大学歴史学教授 John F. C. Harrison の講演 "ロバト・オウエンの アメリカにおける 新道徳世界探求",インディアナ 州立大学 歴史学教授 Robert G. Clouse の講演"ロバト・オウエンと至福千 年説の伝統"、ニュー・ハーモニィの案内、Wisconsin 大学歴史学名誉教授 Merle Curti の講演"アメリカ思 想におけるロバト・オウエン"、パネル討論"アメリ カ思想に与えたロバト・オウエンの衝撃"、オウエン およびオウエン主義者たちの子孫の紹介、音楽会、ダ ンスであって、ニュー・ハーモニィにおけるオウエン の事業、オウエンの思想とアメリカに対する衝撃を問 題とした。 この会議には、イギリスの 200 年記念協 会長 R. L. Marshall と、日本のロバアト・オウエン協 会の五島茂氏から、メッセージが寄せられている。

3

われわれに提供された"詩人の家"は、ラップ時代 の建築の一つで、広大な芝生の庭を持った二階家。素 朴ながっしりとした建て方で、しかもその名の如く風 雅な姿を木立ちの中に示し、1階が広い居間、台所兼 食堂、2階が寝室と浴室になっており、書棚には詩に 関した本がぎっしりと並び、中には日本の建築などの 写真集もいくつかある。建物の周囲には井戸や菜園や 果樹園があり、家の中の家具調度品や大きな鉄の鍵は ラップやオウエンの頃の生活をしのばせ、しかも台所 設備や冷暖房は現代のもので、19世紀初頭の雰囲気の 中で快適に過ごせるわけである。ラップ派の生活は、 質朴そのものと思いきや、かなり豊かで、しかもフレ デリックらの指導で芸術的であったと言えるだろう。 火災の際の延焼を防ぐためもあって、多くの家は広い 庭や果樹園を持ち、さながら荒野の中に現れた庭園の 如き観を呈している。"詩人の家"の内部を観察する と、天井には、40 cm ほどの長さの木片に麦わらを巻 きつけそれを土で固めた"Dutch Biscuits"と呼ばれる ものがぎっしりと敷きつめてあり、これが防音、保温 の役割を果たす。 2 階へ上る階段は広間の隅にあり、 階段の途中に扉があって、保温とプライヴァジィ保護 の役割を果たす。その他暖炉の保温効果,夏の通風効 果なども良く考えられており、自然条件の厳しさを克 服するラップ派の技術を思わせるものがある。彼らは、 居住した10年間に,1階家82軒,2階家34軒,寄宿舎 4棟, 教会2棟, 学校2棟, 倉庫, 火酒蒸溜所, 醸造 所,工場,宿屋,図書館,医院,薬屋,製粉所など多 くの建物を造ったわけだが、一つ一つ型の違う家が、 部品を規格化した大量生産方式で建てられたそうだ。 丸太小屋しかなかった地方に,煉瓦建て3階の寄宿舎 を含め大きな家が立ち並んださまは、まさに壮観と言 うべきであったろう。そうした建物が、現在25軒残っ ており、また10軒が再建され、往時のおもかげを残し ा भाग । हरिया सर्वेश हा सम्रोति सर्वेश है ている。

到着の翌19日, Red Geranium Bookstore で, ニュー・ハーモニィ関係の書物で東京で入手しえなかったもの (6) を選んで買い求め、Ralph G. Schwarz 博士に史蹟を案

注(5) 詳しくは Don Blair, Harmonist Construction, Indiana Historical Society, 1964. プレアによれば、ペンスィルヴェイニアの Harmonie 建築はドイツの様式と新大陸の建築技術の結合であるが、インディアナの Harmonie 建築は前の経験を生かして進歩し、豊かでもあったので、最も良い。 Economy の建築は土地の人の手になったものが多いので、ドイツ人移民の町というよりは豊かなアメリカ人の町である。(Cf. p. 81)

⁽⁶⁾ オウェンよりもラップ関係のものが多い。本稿に引用したもの以外に、Gladys L'Ashley Hoover、Why The Harmonists, Ohio River Frontier Series I. Hilda Adam Kring, The Harmonist, A Folk-Cultural Approach, 1973. John S. Duss, The Harmonist, A Personal History, 1943, reprint 1970. Rappite Cookbook, Old Economy のニューズ・レター Harmonie Herald など。オウェン関係では、Owenism and the Working Class, Six Pamphlets and Four Broadsides, 1821-1834, 1972. Walter Brookfield Hendrickson, David Dale Owen, Pioneer Geologist of the Middle West, 1943. William Maclure, Observations on the Geology of the United States of America, 1817, reprint 1962. Caroline Dale Owen Baldwin, David Dale of Stewarton, Electra, 1973. Clifford Nelson, Lines Written at New Harmony and other Poems, 1968. Clarence P. and Ruth P. Wolfe, The Story of New Harmony, 1814-1970, 1970. Don Blair, The New Harmony Story. など。

内していただく。彼は Historic New Harmony, Inc. の会長, New Harmony Memorial Commission の副議長で、村の史蹟保存計画及び新建築計画の指導をしている人。村の史蹟は、東西3ブロック、南北6ブロックの整然たる区画の中にほとんどが含まれてしまうので、徒歩で十分廻れる広さである。

4

現在の村の主な史跡は、年代順にすると次のような ものがある。

BARRETT GATEHOUSE, 1814. 最も古い住居で, もとあった場所から移動, 1960年に大きな家の一部に 組み込まれた。今は Blaffer Trust の客用宿舎などに 使われている。

THRALL OPERA HOUSE, 1814. 田舎の映画館程 度の建物だが、もとは独身男性のための Harmonist Dormitory No. 4 として1823年完成, 建築様式は興味 深いものがあり、当時の建築方法を知る鍵を与えてい ると言われる。オウエンの時代にはダンス・ホールに、 後アパートに使われ、1857年に、劇場となった。それ より前1827年に、ウィリアム・オウエンにより Thespian Society という演劇クラブがつくられ、これは最 初は教会で、後には Dormitory No. 1, 1855 年からは Workingmen's Institute の中で、芝居をしたが、1855年 に Dormitory No. 4 を購入, 従来の経験を生かして これを劇場に改造したものである。当時この建物は Union Hall と呼ばれ、数会のバザーやスクェア・ダン スなどもここで行われた。この改造により、この劇場 はバルコニィを含めて 600~700 席を有し、州では Metropolitan of Indianapolis につぐ大劇場となったの である。その後 1888 年に Opera Hause となり、1914 年以後は車庫に使われていたのを、1964年にインディ アナ州が買い取ってオペラ・ハウスに復元、現在では、 インディアナ大学や州立大学の学生によって時に劇が 上演されるほか、各種の会議場としても使用されてい

OLD FAUNTLEROY HOME, 1815. ミネルヴァ・ソサイエティ発祥の地として有名で、白亜の優雅な 2 階建ての建物。ラップ派の Pfeil という家族の家で、オウエンの次女 Jane Dale Owen (1805~1890) が、天文学者、気象学者の Robert Henry Fauntleroy と結婚し、1840年以後住んだ。ディヴィド・デイル・オウエン、Thomas Say (科学者、要は芸術家)、Lucy Sistaire Say

(彫刻家), Cornelius Teibout (発明家), Oliver Evans (数師) など多くの人もここに滞在している。Mary Emily Fauntleroy (1857~1952) がこれを相続し保存, 1919年に Indiana Federation of Woman's Club が買い取り, 内部を公開しているので、オウエンゆかりのかなり立派な家具 (1827年にヴィジニア州から取り寄せたティブルなど) や関係者の肖像画、ミネルヴァ・ソサイエティの資料などを見ることができる。

HARMONIST FORT-GRANARY, 1818. Lavoratory の裏側にあり、厚い石壁で建てられたとりで兼倉庫で、屋根の上には弓に矢をつがえてひざまずいているインディアンを描いた風向計が取りつけられている。壁の窓は銃を使いやすくするよう設計されており、倉庫、工場、実験室、社交場などにも用いられた。

HARMONIST DORMITORY NUMBER TWO, 1822. ラップ時代の3階建て独身者寮で、オウエンの時代には印刷所や学校として用いられた。すなわちアメリカにおける最初の Pestalozzi 式学校の跡である。この教育においては、生徒は考えることを教えられ、実生活の中から、一人一人の子供の欲望と進歩に応じて教育が与えられ、教室と仕事場が結び付いていた。アメリカ最初の無料の公的学校とも言われる。建物は公開されていて、博物館として当時の印刷機械や風俗などを見ることができる。南壁には当時の日時計もある。

FREDERICK RAPP CARVING, 1822. ラップたちの教会は火事で焼けたが、その北の扉は残り、それは1913年に New Harmony School が建てられた時に西扉に用いられ、今に至っている。初めの教会は、ラップが夢の中で啓示を得たという計画によって設計され、彼はこの扉の上部には金色のバラと1822という数字を刻んだ。金色のバラは、予言者 Micah の "Unto thee shall come a golden rose……"という言葉から、キリストの再来と黄金時代の到来の予言を示すので、ラップ派はこれを彼らの象徴としている。

OWEN LABORATORY, 1859. オウエンの四男ディヴィド・デイル・オウエンは、地質学、古生物学を専攻し、アメリカ最初の地質学者としてこの研究所を建てた。すなわち、これがアメリカ地質学の源泉である。3 棟が続いた形になっており、中央の屋根は円錘形をなし、その頃ウォバッン河に多い鯉を型取った風向計が飾られている。自然科学研究普及の中心で、当初は研究所と講堂、後には住宅に変えられた。

INFORMATION CENTER, 1888. 木造の風変りな建物で、P.D. and E. 鉄道の停車場に建てられたものを。

1968年に現在の所に移動, Information Center として 用いられている。

WORKINGMEN'S INSTITUTION, 1894. 歴史に名高い図書館、博物館、美術館で、当初は1838年にウィリアム・マクリューアの資金によって建てられ、1894年に Edward Murphy の寄附で今の建物ができた。中央に塔を持つ堅実な感じの2階建て、蔵書37,000点以上と言われ、ニュー・ハーモニィ研究の中心である。マーフィは、これに極めて大きな貢献をし、その資金によって毎年優れた講義が行われ、1933年まで続いたという。またその資金で800席を有する Murphy Auditorium が附属建築として建てられた。

LABYRINTH, 1939. 広い庭の中に植込みによって 同心円状の迷路がつくられ,中央には小さなあずまや がある。迷路に対する強い関心はギリシャ時代から見 られるが、ラップたもはこれを知っており、人生の模 索、選択、運命とその報いの象徴として、彼らの造園 技術によってこれを造り、後世に残した。現在のもの は、もとあった場所の近くに新しく復元したものであ る。

HARMONIST BURIAL GROUND. 果樹園に囲まれた静寂な芝生の空地が、ラップと共にこの村をつくった人たちの墓所である。彼らの半数近くは最初の一年で死んだとも言われ、疫病と聞いつつ流転と苦難の生涯を閉じたことであろう。この墓地には、一片の墓標も、一塊の土盛りもない。ラップ派は、その死においても平等を重視し、同一の服、同一の棺の中に眠り、一切の区別を捨て、墓地の中の個々の埋葬場所は長老のみ知っていたが、今はその記録もないと言う。

ROOFLESS CHURCH, 1960. 囲いのみあって全体を蓋う屋根のない教会。あらゆる宗派に解放されているのも珍しく,一隅に小さなパラシュート状の木ぶきの丸屋根があり,中にマリアと聖霊降下の像が安置してある。ケニス・デイル・オウエン夫人の寄附で造られ、丸屋根は Philip Johnson 設計, バラのつぼみを逆さにした形で,開いたバラの姿を日光の影で地上につくる。彫刻は Jacques Lipchitz, 二つの community 実験の記念碑であり,初期の community spirit の再生を願うもので、像は各人の信仰によってどのようにでも解釈されうると言う。

PAUL TILLICH PARK. 村の外れにあり、長年ニュー・ハーモニィに関心を寄せた著名な神学者 Tillich

(1886~1965) が寄贈した公園。中に彼の墓所および彼 の言葉を刻んだ花崗岩がある。

以上の外にも、いくつかのラップ時代の家やオウエン家の墓所など、興味深いものが多い。案内のシワーッ氏は、建築中の Inn と Youth Hostelry にもわれわれを案内してくれた。その New Harmony Inn は、その後10月に完成、45室を有し、この地の見学に便宜を与えることとなった。

5

19日午後、シワーツ氏の秘書 Loretta Glenn 女史の案内で Helen Elliott さんを訪問。彼女はオウエン派の James Elliott の子孫で、すでに相当の高齢であろうが、ニュー・ハーモニィの近代史を体現したような人で、知的な美しさに溢れ、広い家の中にはオウエンやライトの写真が飾られている。オウエンやミネルヴァ・ソサイエティについて語るうちに時はあっと言う間に過ぎ、21日の午前中も再度訪れる結果となった。彼女は、オウエンの書簡が日本にいくつかあることに強い興味を示し、そのコピイをぜひ集めたいとのことなので、とりあえず塾図書館と一橋大学外池文庫を紹介しておいた。

ニュー・ハーモニィがアメリカにおける女性解放思 想の源泉の地であることは、比較的知られている。旧 来の結婚制度を批判したオウエンが Mary Wollstonecraft を尊敬していたというばかりでなく、長男のデ イル・オウエンとフラーンシス・ライトは、アメリカ における女性解放運動の基礎をつくった。スコットラ ンド出身のライトは、23歳の時自由の地と考えてアメ リカへ渡り、人類の救済、特に女性のために献身する が、ラップ派とその理想に関心を持ち、ニュー・ハー モニィに来てオウエン主義の影響を受け、New Harmony Gazette の編集を助け、1825年に、研究と討論の ために Female Social Society という女性の会を組織し だ。彼女の影響を受け、また父の理想を受けついだデイ ル・オウエンは、旧来の無意味な結婚式を批判して契約 結婚を実践し、州議会議員および上院議員として女性 の法的地位向上に努力した。こうした人物が活躍した ニュー・ハーモニィにおいては、女性の地位は例外的に 高い。また環境も文化的で、オウエンの次女ジェイン・ デイル・オウエンが稼いだフォーントゥヲロイ家には、

注(7) 抽訳「メアリ・ウルストンクラーフトの思い出」、1970、解説228ベイジ参照。

⁽⁸⁾ Ross F. Lockridge, The Old Fauntleroy Home, 1939, p. 121,

オウエン家の三兄弟がよく集って、シェイクスピアを読み、教育、哲学、宗教、地質学を論じ、作曲を聴かせ、そうした中で、ジェインの4人の子供が成長する。そしてロバト・デイル・オウエンが1853年に駐ナポリ大使となった時、オウエン一族の子供たちと共にジェインの子供たちもヨーロッパへ行った。彼らのうち次女の Constance Owen Fauntleroy がミネルヴァ・ソサイエティの設立者で、ヨーロッパで教育を受けたのち、帰国し、友人と共にフォーントゥラロイ・ホウムにおいて、単なる社交団体以上の永続的な組織を提唱、この家に住む叔父ロバト・デイル・オウエンが憲章を書き、ここに成文憲章と付則を持ったアメリカ最初の女性クラブが創立されたのである。

その目的は、"自己開発と知的教養のためにニュー・ ハーモニィの若い女性によって設立される"と宣言さ れている。この叔父は、1850~51年に書かれたインデ ィアナ州憲法の起草者の一人だから、憲章を書くには 適任だった。コンスタンスは会長となり、副会長、書 記も選ばれ、会の名はローマ神話の知恵の女神からつ けられ、"Sapientia Gloria Corona Est" (知こそ栄光の冠) がモットウとなり、その略語 SGCE を金字で並べ十 字の月桂樹をあしらったものがバッジと定められた。 集まった会員は27名、当時の水準からすれば、いずれ も教育程度の高い人たちで、真面目な計画を立て、詩、 評論、小説などを書き、週に一度集まり、討論を重ね、 優れたものを The Advertiser に発表した。また"教 育はわれわれを幸福にするか?" "temper と affection のいずれが制御しがたいか?""戦争と奴隷制の、ど ちらがより大きな害悪か?""女性は知的に男性と平 等か?""事実と想像のいずれが知的快楽に貢献する か?"などの討論テーマが選ばれ、二派に分れて論争 を試みている。会は4年間続いたが、南北戦争の混乱 によって、1862年10月休会を決め、1863年9月28日ま での記録を残して、消滅した。会員の多くは、雄弁家、 著述家,音楽家,芸術家,教師,図書館員,宗教指導者, 女性解放の指導者など、知的な職業についたという。

この会に大きな貢献をしたのは、コンスタンスのい とこ Mary Emily Fauntleroy (1857~1952)であった。 彼女の母もまたこの会の設立時からの会員で、共にフ ォーントゥラロイ・ホウムに長く生活していた。彼女は、この会の写真や資料を整理し、オウエンとフォーントゥラロイ家の家具調度などを保存し、同家のミネルヴァの間で、今日われわれがこれらを見ることを可能ならしめた。彼女の努力がなければ、この会の歴史は今日のようには知られなかったであろう。またこの会は、その会員を通じて General Federation of Women's Clubs などの組織にも貢献したので、まさにニュー・ハーモニィは、アメリカ女性解放の淵源の一つと讃えられるにふさわしい。

6

翌20日は、朝から Workingmen's Institute へ。幸いに も"詩人の家"の近所の子供たちが5歳の娘と遊んでい てくれるというので、妻と2人で1日中ここにこもる ことができた。親から言われたのかどうかわからぬが、 村人たちが陰に陽にわれわれの仕事に便宜をはかって くれるので誠にありがたい。この建物は1階が図書館 で,左手が書庫,右手が閲覧室,奥の小部屋が archives になっている。ニュー・ハーモニィ関係の書物が多い のはもちろんだが、ついたでには、オウエンの玄孫 Caroline Dale-Owen Baldwin 女史が1970年にオウエン 生誕 200 年行事組織のために来日した折りの毎日新聞 の記事が未だにはってあり、また館員の女性は、日本 のものはこれだけあると言って,「ロバアト・オウエ ン論集」や五島茂氏の論文「オウエン系図」などを示 してくれた。異国でめぐり会う自分の論文を含めて、 誠に懐しいものばかりである。来客名簿にも、五島茂、 越村信三郎などの署名が見られる。私も旧著「オウエ ン」の一本を呈し、蔵書中に加えるよう依頼した。

Archives では、まず The New Harmony Gazette に目を通す。もちろん今はリプリント版で日本でも読めるが、原物は珍本中の珍本であり、またこの場所で読む感じは特別なものがある。オウエン一族およびオウエン主義者たちの資料も多く、厚さ 3 cm にも及ぶ Josiah Warren のノウト・ブックなどは、ここでなければまず見られない。ミネルヴァ・ソサイエティに関しては、憲章、付則の現物、1859年9月20日から1863

注(9) "これより以前にニュー・ハーモニイや他の場所に共通の目的をもって染まり、この意味で結社をつくった 女性の グループがあったことは疑い得ない。しかし、女性のために結社をつくるという理念を明白なまた機能的な形式に具体化し、堅実で持続的な制度をつくり上げたことが、ミネルヴァ・ソサイエティの独自な価値である。" *Ibid.*, p. 129.

⁽¹⁰⁾ Synopsis of the Minutes of the Minerva Society of New Harmony, Indiana, edited by Rachel FauntLeRoy, 1904, p. 4. Cf., Ross F. Lockridge, op. cit., p. 176.

年9月28日に至る議事録、会員についての資料などが、 New Harmony State Memorial Collection の中に含ま れている。この Collection は、かつてフォーントゥラ ロイ家にあった書物やメアリ・フォーントゥラロイが 集めた書類、新聞などからなり、現在はインディアナ 州の所有となっている。そのほかにもいくつかの collection があるが、残念なことには綜合図書目録がなく カードだけなので、その全貌がわからぬのは惜しい。 2階は右手が博物館で、考古学上の遺物からラップ時 代、オウエン時代の資料が展示されており、フラーン シス・ライトのピアノや初期の消火ポンプなどが目に つく。 2階の左手は画廊で、1887年と95年の2回にわ たってエドワド・マーフィが寄贈した絵が飾られ、ま た彼の資金で開かれてきた絵画クラスの生徒によるこ の地方の歴史画、風景画が書かれている。中央階段に は、ラップがオウエンにニュー・ハーモニィを譲渡し 署名している大きな絵があって、この地の歴史を示し 興味深い。(ただし、オウエンとラップはニュー・ハーモニ ィでは会っていないだろう。)

司書からおみやげに頂戴した立派な 装訂の History of the New Harmony Working Men's Institute, 1838-1927, compiled from original documents by Thomas James de la Hunt, 1927によれば、創立者ウィリアム・ マクリューアは、"大学や公立諸学校は、学問を少数の 金持だけのものとし、それによって教育のない大衆を 抑圧しようといつも努力してきた。このような誤った 偏狭な政策のゆえに、科学教育や普通教育からこれま で排除されてきた人たちに、科学と芸術の一般的知識 を伝える"ことを重要と考え、労働者階級の教育と発 展が、彼の生涯の目的であった (p.1)。 以後、労働 階級の運動とどれだけ結びついているかは疑問である が、この労働者会館が、一般の知識普及と教育に大き な貢献を続けたことは言うまでもない。だが、その大 きな歴史的役割に比すると現状はいささかお粗末で、 資料はよく整理されておらず,文書の複写に制限があ るなど、機能はあまりよくなかった。来客名簿に記さ れた研究テーマを見ると、ウォーレンやライトなどに 対する関心が特に強まってきたことがうかがわれ、将 来ここが所蔵する資料の価値は、世界的に大きく評価 されると思われるので、労働者会館の整備と発展を強 く望みたい。

7

21日, Elliott 女史を再訪し, Glenn 夫人と食事を共 にしたのち、厚遇を謝して"詩人の家"を出発、イン ディアナ州立大学の Donald E. Pitzer 教授がわれわ れを待ちうけているとのことで、30マイルほど離れた Evansville に車を飛ばす。この大学はインディアナ大 学とは別の新しい州立大学で、"Utopia"と銘打った研 究室で、われわれを迎えたピッツァ氏は、ユートウビ アの住人らしく明るい笑顔でユートウピアを論じ、最 近ヨーロッパで撮ってきたばかりの、Württemberg お よび New Lanark の多数のスライドを見せてくれた。 ラップの生まれ故郷の写真は、私には初めて見るもの である。そのあとでしばじ雑談――一体ニュー・ハー モニィで真にオウエンのものと言えるものは何か?… …それは意外と少ない。建物はラップのもの、教育は マクリューアだし、彼の協同組合運動も社会主義もこ の地に根付いてはいない。彼が本当に残したものは、 彼の idea, spirit, そして The New Harmony Gazette だろう。 --アメリカで最初の無料の公立学校はニュ ー・ハーモニィが最初か?……それは疑問がある。と かく地元の人は自分の所の歴史だけを強調するので 一などなど。夕刻"ユートウピア"室を辞し、図書 館の Indiana Room や Rare Book Room を見せてもら う。大学自体が新しいので、特に目立つコレクション はない。

そこで翌22目は、Bloomington のインディアナ大学 図書館へ。ここは素晴らしい新建築で、中西部大学の 偉容の一角を示して、300 万以上の蔵書を誇り、稀覯 書の Lilly Library を有している。オウエン関係の蔵書もさすがに相当なもので、アメリカにおけるオウエン研究の一拠点と言えるだろう。時間の都合で細かい 検索には他日を期し、かつてフレデリック・ラップが州都の選定と計画に活躍した Indianapolis へ一泊。ここの州立図書館の Indiana Division にもかなりニュー・ハーモニィ関係の資料が集められているし、また同じ建物の中に、1830 年創立という Indiana Historical Society があり、たまたまオウエンの資料を展示中であった。アメリカにおいてオウエンを描いた唯一の肖像だという John Cranch の絵 (1845年にワンントンで書かれ

注(11) インディアナ大学とオウエン一族の関係は深く、リチャド・オウエンは 1863 年か 79 6年まで同大学の自然哲学, 化学, 地質学の教授, ロバト・デイル・オウエンは 1838~46 年, 1850~52 年に理事として大学に貢献し、最も古い建物は Owen Hall と名付けられている。Robert Owen's American Legacy, pp. 25-6.

た。Long Island Historical Society 所蔵) を中心に、A New View of Society の最初のアメリカ版, Manifesto of Robert Owen, 1841. An Address to the Socialists on the Present Position of the Rational System of Society, 1841. Robert Owen's Millenial Gazette. The Co-operative Magazine, いくつかの手紙の copy などが 並べられているので、Tom Rumer 氏に会ってオウエン 研究の現況を聞く。この会と Indiana Historical Burean の多数の出版物の中には, David Dale Owen, Pioneer Geologist of the Middle West, by Walter Brookfield Hendrickson, 1943. The Diaries of Donald Macdonald. 1824-1826, with an introduction by Caroline Dale Snedeker, 1942, reprint 1973. To Holland and to New Harmony, Robert Dale Owen's Travel Journal, 1825-1826, ed. by Josephine M. Elliott, 1969. Diary of William Owen from November 10, 1824 to April 20, 1825, edited by Joel W. Hiatt, 1906, reprint 1973. 及 び前述の Robert Owen's American Legacy など貴重 なものがある。

8

23日, インディアナポリスに別れを告げ, Cincinnati, Columbus, Wheeling, Winchester と北廻りの道でヴァ ジニアへ向かう。かつて Charlottesville 近郊に生まれ た探険家 George Rogers Clark が独立戦争中ヴァジニ アの権益のためにインディアナに進軍し、またラップ 派が新たな共同体建設のために移動したであろう苦難 の地帯を、今は快適なハイウエイに乗り、途中の見物 をしながら反対方向に走って3日で通り抜けてしまっ た。オウエンがペンスィルヴェイニアのイコノミィか ら初めてニュー・ハーモニィにたどりついた時は1カ 月以上もかかったと言われるのに、時速60マイルとい うスピードは、先人の苦難の歩みを感覚として忘れさ せてしまう。それにしてもラップは、かくも遠い道を 何のために荒野の只中へやってきたのか? そしてニ ュー・ハーモニィを引き継いだオウエンとオウエン主 義者たちは、一体何を残したのか?

ニュー・ハーモニィの現状は、建築物、史跡として はラップ派のものが圧倒的に多い。キリスト再来の暁 にはすぐにもパレスチナへ旅立とうとしていた彼らが、 なぜ今日にも残る堅固な建築を行なったかは疑問だが、 それほどに彼らの技術水準が高かったのであろう。また、それを発揮させる彼らの宗教的情熱が強かったの であろう。それを引き継いだオウエンは、技術者を選 んで入村させることをせず、それが共産主義失敗の一 原因ともなるのだが、そのかわりに、文化を導入し教 育を普及する人材を得ることには成功した。たとえば、 帰宅後に送られてきた五島茂氏の近著「ロバアト・オ ウエン」には、次のように記されている。

"1826年1月24日「知識の宝船」(The Boatload of Knowledge) 'philanthropist'号着。26日上陸。 優秀な自然科学者一行27名。 Robert Dale Owen, William Maclure, Thomas Say, Charles-Alexandre Lesueur, Fretageot 等。 重大な頭脳流入。やがて 米国文化への最大の寄与となる。"

彼らによって、共産主義の実験は失敗したが、進歩 的な思想と高い文化が維持された。今日村で誇らしげ に言われるような、アメリカ最初の男女共学無料の公 的学校、最初の幼稚園、最初の幼児学校、職業学校、 無料図書館,憲章を持った女性クラブ,民間劇団,地 質学研究発詳の地……ということが、例え多少の留保 が必要であるとしても、ニュー・イングランドやヴァ ジニアなどのヨーロッパ文化の吸収口から遠く離れた 辺境の地の一隅で、アメリカ文化の一源泉が吹き出し たということは誠に驚異と言うほかはない。その意味 でニュー・ハーモニィは、単にラップとオウエンの共 産主義の実験場と言うばかりでなく、困難な状況のも とで人間の可能性を示す実験場でもあった。そして communism は敗れたが community は残り、人間の理 想と情熱がどれほどのものをなしうるかということを, ニュー・ハーモニィの歴史は長く人びとに語り続ける であろう。

帰宅後暫くしてから、インディアナ州立大学のピッツァ学部長より、Historic Communal Societies Conference を11月15、16の両日ニュー・ハーモニィで開くという招待状をいただいた。イリノイ州の Illinois Parks and Memorials、ミズウリ州の Bethel German Communal Colony、ペンスィルヴェイニア州の Old Economy、ケンタッキィ州の Shakertown などの代表と共にピッツァ氏が準備したもので、歴史的な共同体を保存し生かすための、相互連絡、協力の方法を探るのがこの会の

注(12) 五鳥茂「ロバアト・オウエン」, 1973年, 239ベイジ。この "Philanthropist" については, 前記のロバト・デイル・オウエンの旅日記に詳しい。

目的である。氏は、ここ10年の間に共同体に対する関心がかつてない程高まったことを指摘し、若い世代のために共同体を復活し、古い民芸を再評価し、建築や資料を保存する必要を力説された。私は所用でこれに参加しえなかったが、かかる会議がニュー・ハーモニィで開かれることは大きな意義があり、この会議は過去の歴史に対してのみならず、未来に対しても大きな貢献をするであろうと祝意を表した。そして、共同体に対する関心はアメリカのみならず、日本においても近年急速に高まっており、かかる会議は近い将来国際的な規模で開かれるべきであるとの要望も書き添えておいた。遙かに歴史を流れるウォバッシ河のほとりに思いをはせ、再度の訪問を念じつつ……。

— 1月15日, Charlottesville にて—

(付記)

ピッツァ氏からその後送られてきた便りによると、The Historical Communal Societies Conference には14の歴史的共同体から80人以上の人が集まった。第2回会議は、本年11月6、7、8日に、ケンタッキィ州のShakertown (Pleasant Hill) で開かれる。この会議では、歴史的共同体の間の連絡を保ち、共同資金の設立、出版活動などを促進する機関の必要性が認識され、インディアナ州立大学には資料の収集のために Institute for Communal Studies がつくられる。

またニュー・ハーモニィにおいては、Documents and Memorabilia Committee of the New Harmony Memorial Commission が、ニュー・ハーモニィ関係の資料収集を計画している。労働者会館に隣接したマーフィ講堂などいくつかの古い建物も修復され、5月16、17日には、インディアナ州の後援により、スロール・オペラ・ハウスで American Bicentennial Symposium が開かれる

という。

また最近 The American Utopian Adventure という リプリントのシリーズがフィラデルフィアの Porcupine Press から出版され、ニュー・ハーモニィに関し では次の書が含まれている。

(Series One) Paul Brown, Twelve Months in New Harmony, presenting a faithful account of the principal occurrences which have taken place there within that period: interspersed with remarks, Cincinnati, 1827. John S. Duss, The Harmonists, a personal history, Harrisburg, 1943. Alice J.G. Perkins & Theresa Wolfson, Frances Wright: Free Enquirer, the study of a temperament, New York, 1939.

(Series Two) New Harmony as seen by Participants and Travellers, Part One, letters of William Pelham written in 1825 and 1826, edited by C.C. Pelham, Part Two, diary and recollections of Victor Colin Duclos, transcribed by Nora C. Fretageot, Part Three, report of a visit to New Harmony by Karl Bernhard, Duke of Saxe-Weimar-Eisenach, illustrated with contemporary sketches by Charles Alexandre Lesueur. Indianapolis, 1916.

ニュー・ハーモニィに関する日本語の文献としては、越村信三郎「ロバート・オーエンの夢と現実――ニュー・ハーモニー物語のひとこま」(「経済評論」1964年4月号、ロバフト・オウエン協会編「ロバアト・オウエン論集」家の光協会、1971年所収)、越村信三郎「アメリカにおけるキリスト教共同村――ニュー・ハーモニー物語のひとこま」(「経済系」61号、1964年7月)、五島茂「ロバアト・オウエン」家の光協会、1973年などがある。

(4月20日)

(経済学部教授)